

授業概要

日本市場が独自の発展を遂げている間に、世界市場の動きから取り残され、国際展開の機会を逸するという「ガラパゴス化」の1つの原因は、リスクの高い海外よりも、安全・確実な国内を選択するという判断が繰り返されてきたことにある。安穩と国内に引きこもっていたことが、高い技術力を誇り、さまざまな未来を描くことができたはずの日本企業の現状を、閉塞的なものにしてきているのである。私たちはもちろん、地元に貢献したい、日本で活躍したいという志を持つ人を否定するわけではない。しかし、そうした人であっても、必要であれば、果敢に海外へと出ていけるだけの準備と心構えをしておくことは、これからますます進んでいくグローバル化の中で、大切なことだと思われる。本講義から、世界に挑戦する勇氣と力を持った人が巣立つよう指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	第 I 章 国際経営の基礎:国際経営とはなにか
第 3 回	海外直接投資の理論
第 4 回	多国籍企業による国際競争の歴史
第 5 回	多国籍企業の組織デザイン
第 6 回	トランスナショナル経営
第 7 回	海外子会社の経営
第 8 回	第 II 章 国際経営の実践:国際マーケティング
第 9 回	ものづくりの国際拠点展開
第 10 回	研究開発の国際化
第 11 回	国際的な人的資源管理
第 12 回	国際パートナーシップ
第 13 回	日本企業のさらなる国際化のために
第 14 回	ケーススタディのグループディスカッション
第 15 回	ケーススタディのグループディスカッション
第 16 回	期末テスト

到達目標

本講義は、国際経営を修得する第一歩を、優しく、しかし力強く海外へ後押しするようなものとなるべく展開する。本講義の特徴を端的に表せば、理論と実態とをバランスよく取り扱い、その2つを結びつけて思考できるように構成したことだといえるだろう。グローバルな視点からものごとを考え、世界と日本の歴史と今を知り、国境を越える企業経営の実際を理解し、さらにその背後にある基本理論を修める。グローバルに活躍するマネジメント人材の基本的教養として、理論と実社会の知識を関連づけながら幅広く身につけられるように、全体を設計してみたつもりである。当たり前のように、世界を舞台にできる、そんな学生が、多く生まれることを望む。

履修上の注意

学生と講師によるディスカッションを本講義では大切にしたいと考えている。

予習・復習

★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。★本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

評価方法

1) 期末試験 (50%) 2) リアクションペーパー (30%) 3) 講義への貢献度、グループ討論 (20%)

テキスト

- ・教科書名：『はじめての国際経営』
- ・著者名：中川功一・林正・多田和美・大木清弘
- ・出版社名：有斐閣
- ・出版年 (ISBN)：2015 (978-4641150171)

また、教員オリジナルの資料も使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。必要に応じて、授業後に配布可能なスライドを配布する。